



東京都議会議員(豊島区選出)

米倉春奈

米倉春奈
プロフィール

1988年宮崎県えびの市生まれ。中央大学卒業。就職難、学費負担軽減を求め活動。25歳で都議初当選。環境・建設委員を歴任し現在公営企業委員。

声をあげれば政治は必ず変えられる

7月2日
都議選

若者に希望ある未来を



電通の過労自殺問題を都議会で追及 若者の悲劇くり返させない



過酷な労働にさらされる若者

いま若者が社会に出て、直面する状況は深刻です。働く人の4割が非正規雇用。苦勞して就職しても、長時間労働、低賃金が若者の気力も体力も蝕んでいま

す。さらに労働基準法を守らないブラック企業は若者の未来を奪い取っています。私はこうした同世代の働き方に対する悩みの声を多く聞いてきました。

長時間労働減らせと要請

私は、3月の都議会本会議で、電通で大卒1年目の24歳の女性が過労自殺した事件をとりあげ、2度と繰り返さないよう質問しました。

被害にあった女性の母親の「命より大切な仕事はありません」という言葉に、胸が張り裂けそうになりながら、質問準備に臨みました。

最初は都も冷たい対応でしたが、調査とやりとりを繰り返し行うことで、小池知事から「過労死という言葉そのものをなくしたい」「企業や経営団体に対して長時間労働の削減を呼びかける」という答弁を引き出すまでこぎつけました。繰り返される過労死を根絶させるためにも、ひきつづき都政で働かせてください。



都議会で小池知事に質問
3月1日、都議会本会議

ブラック企業・バイト根絶へ 米倉春奈さんをひきつづき都政へ

2009年からとりこまれた「池袋派遣村」での生活・労働相談に米倉さんとともに参加してきました。米倉さんは、路上生活が長く、体調を崩し一刻も早い治療が必要な方と一緒に福祉事務所や病院に行き、励まし続けていました。芯の

通った政治家です。国会と都議会で協力して、ブラック企業などを根絶し、だれもが人間らしく働ける社会をつくるために米倉さんを都政に押し上げてください。

日本共産党 参議院議員 吉良 よし子



米倉春奈

東京都議会議員(豊島区選出)



最年少都議 / 25歳で都議会議員に。
 こだわりのつづけたこと。

こだわり① 学費・奨学金

自らが大学卒業時に500万円の借金 都政で返済不要な奨学金をつくる

都議になる前に、母子家庭の大学生から「母親が亡くなり、弟の進学のために退学を考えている」と相談されました。いまの公的支援では借金が前提であり、彼は結局退学の道を選ぶしかありませんでした。お金の心配なく学べる社会にするため政治を変える、と決意しました。

自費で韓国ソウル市立大学を調査

学生の要求に応じて学費を半分に減らした韓国ソウル市立大学まで自腹で視察に行き、都議会で質問しました。奨学金はまだですが、首都大学東京の学費減免を拡充することができました。



こだわり② 若い女性への支援

声をあげにくい人に都政の光を

「女の子にお金をかけても無意味」と学力があっても進学させてもらえない友人がいたり、まわりには男女の格差があることを感じながら育ちました。誰にでも可能性があるのに不平等だと感じていました。現在、働く女性の半数は非正規雇用、東京都の家賃は高く、少なくない若い女性が生活苦に。孤立しがちなシングルマザーにも支援が絶対に必要です。

若者への家賃補助 一答弁が一步前進

「家賃を払うと生活費をまかなうのが大変」という声が若い女性やシングルマザー、学生から多く寄せられました。若い女性の支援を都政の場で取りあげようとする、「東京都がやることじゃない」とか「とりくむ部署がない」といって「たらい回し」にあいました。それでも、やりとりをくり返しました。若者に家賃補助を、との質問に、これまで「考えていない」と答えていた都が「国の検討を注視」と答弁しました。

都議1期目 駆け抜けた4年間

—「政治は変えられる」と実感



待機児解決へ

「認可保育園」区内で 26園1,801人分増



私が都議になるまで、豊島区の都議は自民・公明・民主が議席を占め、区内で認可保育園が8年間で1園もできませんでした。豊島区から8年ぶりに共産党都議が誕生し、東京全体でも8人から17人に増え、ママ・パパの声が届き始め、認可保育園増設のテンポが2倍にアップ。区内でも認可保育園26園、1,801人分増えました。



高齢者に安心を

10年間増えなかった 特養ホームも2カ所実現



「このままでは2人で倒れてしまう、早く特養に入りたい」と夫を介護する80歳の女性から相談を受けていました。広い土地がない豊島区でも小規模な特養ホームが増えるよう、新しい仕組みづくりを提案し今年実現しました。区内でも3年間に2カ所194人分の特養ホームが増えました。

転落事故防止へ

池袋駅(西武)に ホームドア設置

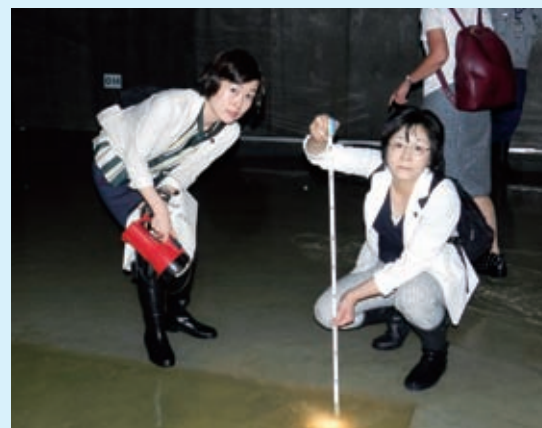


目の見えない方々と一緒に現場を歩いて、「ああ、ここは危ない」と一つひとつ実感した日々。その声を都議会に届けてきました。目白駅に続いて「乗降客世界2位」の池袋駅に西武でホームドアが設置され、東武でも設置される予定です。

食の安全は ゆずれません

「無害化」できない豊洲移転はキツパリ中止し 世界に誇る築地の再整備を

ついに、東京都の専門家会議の座長が“無害化は約束できない”と発言し、いくら対策をしても豊洲市場の汚染はなくせないことを認めました。地上も地下も危険な豊洲への移転は中止し、築地を再整備すべきです。築地は開場以来80年にわたり食品汚染も食中毒も起こしていません。検出された有害物質も豊洲とは比べものにならないほど軽微です。



汚染だらけの豊洲移転にしがみつくと自民・公明

深刻な土壌汚染の東京ガス工場跡地の豊洲に石原知事らとともに6000億円もつぎ込んできた自民、公明の責任は重大です。「許せない」の声を突きつけましょう。

移転推進の公明党と協力して 本心に改革ができるの?

都民ファースト

都民ファーストの会は豊洲移転の是非を示さず、移転推進の公明党とは選挙協力。責任と立場が問われます。

2期目 暮らし・福祉・医療の 願い実現に全力

米倉春奈の4つの緊急公約

- 1 認可保育園をさらに増設。特養老人ホームの増設で入所待ち解決を
- 2 国保料・介護保険料・後期高齢者医療—3つの保険料の軽減
- 3 都独自の返済不要の奨学金、若者・子育て世代の家賃補助の新設
- 4 中小企業への支援をすすめ、最低賃金は時給1,500円をめざす

東京都の総予算は13兆円 使い方を暮らし優先に変えます

石原都政以来、福祉を削って大規模開発につき込む歪んだ都政に。自民、公明は、1m1億円もかかる外環道をさらに2兆円分も延伸しろと求めています。これでは福祉にお金が回りません。

都議自身の税金の 使い方も問われます

都議会議員の税金の使い方は、都政のムダ使いをなくす本気度が問われます。日本共産党は、報酬削減、費用弁償(日当)廃止などを提案し実現。政務活動費の新年会費や飲食への支出禁止も提案しています。



豊島区選出都議の政務活動費を使った 新年会への支出額(2015年度)

自民党	公明党	共産党
61万円	54万円	0円

(「朝日新聞」(2016年8月11日付)より作成「新年会」[質問文取会]の合計)

安倍首相が改憲宣言

3人を選ぶ豊島区

憲法9条守れの声がいま党派をこえて共産党の米倉春奈へ寄せられています

9条
まもれ



安倍首相が3年以内に憲法9条を改悪し、海外での武力行使を無制限にできるようにねらっています。自民党の下村博文幹事長代行は「都議選で勝たなければ2020年の憲法改正に大きく影響する」と述べました。

豊島区で自民、公明が勝てば、安倍首相の野望に拍車がかかります。

改憲を許さず、世界に誇る憲法9条を守り生かす声を、日本共産党へお寄せください。

「共謀罪」「加計学園」「森友学園」

—強権、国政私物化の安倍暴走政治に審判を

「内心」を処罰する「共謀罪」法案の強行、「森友」「加計」など国政私物化疑惑の深まり…。安倍暴走政治への怒りと不安の声をあげ、米倉春奈を都政に押しあげてください。

安倍自民・公明政治に許せないの声を



はるなストーリー

米倉春奈の原点「世界から貧困をなくしたい」

子ども時代

宮崎県の豊かな大地で育つ

故郷は、豚肉や牛肉が名産の宮崎県えびの市です。昔住んでいた家では屋根裏にムササビがいて、毎晩軒先からぴゅうっと飛んで「運動会」。田畑と自然に囲まれて育ちました。



中学時代

カンボジア訪問で貧困の現実を体験

カンボジアの教育支援をする、父のNPO活動に同行し、ごみの山で生活している子どもたちに会いました。ある女の子が「勉強が楽しい。先生になりたい」と話してくれましたが、貧困から抜け出すことは困難だと状況が物語っていました。夢があっても、努力しても、自分の力だけではどうにもできない社会を変えたい、世界の貧困や格差をなくしたい、この思いで大学へ進学しました。



夢があっても、努力しても、自分の力だけではどうにもできない社会を変えたい、世界の貧困や格差をなくしたい、この思いで大学へ進学しました。

学生時代

イスラエルとパレスチナの国際交流に参加

両地域の学生の交流の場に参加。徐々に互いを理解する姿に、武力ではなく話し合いこそが平和への道で憲法9条は世界の宝だと確信しました。



社会を変えたい —日本共産党に

「日本でも貧困が広がっている。日本や世界の一人ひとりが安心して暮らせるためにがんばる人が増えないといけない。それをやっているのが共産党だ」と呼びかけられ、入党を決めました。19歳のときでした。

大学卒業後は「社会を変えていきたい」と思い、共産党の専従職員になる道を選びました。

25歳で都議会議員初当選。声を届けるため、これからも駆け抜けます。

